

大岡小学校の存続を求める会 意見交換会 会議録（要約筆記）

日時：令和4年1月30日（日）

場所：大岡市民活動センター2階会議室

出席者：大岡小学校の存続を求める会（13名）

教育長、教育委員会事務局（6名）

1 挨拶

(1) 教育長

(2) 大岡小学校の存続を求める会会長

2 自己紹介

3 会議資料の確認

4 冒頭陳情

求める会会長より陳述

質問6追加

議会だより（2月1日号）が配布されているが、先の12月議会安藤議員の質問において、過去に市長は、大岡小学校はなくなると話した旨答弁した。それに対していかがか。明確にそのようなことを話したことはあると言った。このことをどう捉えているか。市長の発言なので大きな意味を持つものとする。

5 質問に対する回答（教育長）

質問1：令和6年度実施は早計であることに関する見解

現在、保護者や住民の方との、報告会、話し合いは1回行えたのみである。十分な話し合いが行えたと考えていない。

今回、報告会は延期となったが、開催したとしても、まだ十分であるとは言えないと思う。十分な意見交換を行わないまま、審議会の答申を得ることはできないと考えている。令和6年度実施の理由としては、極端に人数が少ない学級において、学習環境を早急に整えたいと考えて他の地区よりも早くさせていただいた。

審議会の答申についても、話し合いを行った後にいただく。推進計画に関しても先送りしたいと考えている。

話し合いを行った後に審議会の答申をいただき、そのため、実施も先送りをしたいと考えている。

質問2 約2,000名の署名、大岡小保護者アンケートでは、92%が反対の数字に対し、見解を伺います。

署名については、2000名の方にいただいたことを考えると大岡小学校が地域に根ざしていることや地域住民の方に愛されているということがうかがい知ることができる。

保護者のアンケートからは、大岡小学校のことを愛していることや大岡小学校の教育に対して支持していただいていることは、教育委員会として、とてもうれしく誇らしく感じる。このような意見を真摯に受け止めつつ、話し合いを重ねていかなければいけないと考える。

「どうして学校適正規模が必要なのか」「どのようにして実施していくのか」については、保護者や地域の皆様と意見交換をしながら進めていかなければいけないと考えている。

質問3 通学距離に対しての見解を伺います。

仮に大岡小と松二小が統合した場合、通学距離は4kmを超える。長いところでは5kmを超える。歩いて通うには、小学1年生や低学年には困難な距離である。統合の場合は、スクールバス導入を前提に検討をすることになる。スクールバスなしでは、統合は難しいと考えている。

質問4 「要望書」とともに本日の質疑や要望を尊重し、住民が納得いく方策を提案していただきたい。

質問5 「要望書」を次回審議会への参考資料として配付されることをお願いする。

質問4・5については、ご意見として承る。

また、質問5については、次回の審議会において確実に事前に配付したいと考える。

質問6 市長の発言について

5年前に話があったことを承っている。その時点では、まだ適正規模等について話は全く出ていなかったもので、その時点では大岡小学校の閉校はないとのお答えであったと捉えている。

6 質疑応答・意見交換

- ・求める会：令和6年の実施を先延ばしということで良いか。
- ・教育長：はい。今年度中に、答申を得ることは難しい。教育委員会は答申を尊重したい。
最終的に、教育委員会の会議において決定するが、答申を得ないと、いろいろな準備等ができないので先延ばししたいと考える。
- ・求める会：要望書の回答時期について
- ・教育長：要望書につきましては、全市的に回答する内容となるため、回答がいつになるか大変申し訳ないが、回答することができない。
- ・求める会：地域へ今回の情報は回覧し、適宜お知らせしたいと考えている。

- ・求める会：先送りと話されたが、統合という方向性は今後なくなるのか。まだ残っているのか。
- ・教育長：統合・再編がなくなるということではない。統合・再編は方策の1つではあるため統合・再編も含め、今後、話し合いを進めていきたい。
- ・求める会：大岡小学校は統合して無くなる前提の方向性ではなく、3つの地区(小学校)の一つの学校をなくすという方向性でいきますか。要するに、大岡小を残して松二小や市の川小をなくすということもありえる。規模的に考えるのか。松二小、市の川小は、直線距離が1.5km程度である。松二小から大岡小は直線距離で4kmである。地理的な環境で統合を考えると松二小か市の川小がなくなって、通学バスを出さないといけない。小学生が歩く環境を考えると、大岡小学校は一番外れにあって、一番遠い。松二小、市の川小は、直線距離が1.5km程度でしかないもので、最大でも2km以内で通うことができる。同じ住民税を払ってこのような不平等なことはありえない。環境も考えて方針を考えてほしい。また、地震の調査をしてほしい。市の川小は震度8で校舎が傾く。子どもの安全・安心を考えたら、学校の建屋の強度・耐震性、水回りを調べた方がよい。この前、九州で地震があった様に、どこで何が起こるかわからない。今後教育委員会は、子どもたちを守ることができるか。人数の制限ではなく、災害についての安全も守れるのか。そのようなことも前提に進めて考えてほしい。そのために耐震性や水害環境を一度調査してほしい。審議会では、そのような話がでていないし、専門家も入っていない。この地区には深谷断層がある。そのようなことを教育委員会や先生方の専門家がいるはずなので調べてほしい。災害も含めて小学校の立地を考えてほしい。災害が起きたときに想定外と言われたら困る。この場で意見を出したからしっかりと調査して、立地条件を考えてほしい。
- ・事務局：断層については調べていない。市内小・中学校について、耐震基準は全ての学校で満たしている。
- ・求める会：コンクリート強度を調べているか。
- ・事務局：水害については、危機管理防災担当よりハザードマップを改定し配布している。また校舎については、建築年次で、耐震基準を満たしているか調べている。
- ・求める会：このような話があった時点で、調べてほしい。作った当時の資料ではなく、現在の基準で。
- ・求める会：話が込み入っているので、意見としてお願いします。
- ・事務局：心配されているという点は、十分承りました。
- ・事務局：浸水想定はハザードマップから、松二小、大岡小は想定されていない。
- ・求める会：そう考えると市の川小の一部児童を松二小へ、松二小一部児童を大岡小へ学区を変更したほうが良いのでは（距離的に）

- ・求める会：そもそも、地域の実情、歴史的な背景、地域等環境などを総合的に勘案して、子どもにとってより良い教育環境を検討し、適正規模を推し進めていくべきではないかと思っている。
 - ①県内等の状況を見ても、財政的なことが主導に論じられているのではないかと。本音を聞きたい。
 - ②令和 6 年度、方策実施が難しいと聞いたが、あと何年くらいのスパンで具現化したいと思っているのか。
 - ③人口が増えなければ、子どもは増えない。大岡地区に人口流入、定着人口といった施策を打ち出さないと大岡地区の発展に繋がらない。

1 月 17 日要望書提出時、森田市長が、「全市的な対応が必要」と言ったとおり、閉鎖的な都市計画では地域の発展はあり得ない。他の部局に働きかけて、大岡地区発展のため、人口流入を促進してほしい。教育委員会事務局として、担当部局にどのように働きかけ、改善要望していくつもりはあるのか。
- ・教育長：①財政主導については、全く考えていない。あくまでも子どもたちの学習環境を第一に考えている。もちろん地域の実情を踏まえ、子どものためにどのような環境が良いのか考えている。
 - ②あと何年くらいのスパンで具現化したいと思っているのかについては、保護者や住民との話し合いの状況による。ただ、子どもの学習環境を早く整えたいとは思っている。
- ・事務局：③他部局への働きかけについては、先日、提出された要望書に内容が記載されているので、情報は全庁的に共有している。教育委員会事務局から都市計画の見直し等働きかけてはいない。都市計画については、市全体で捉える問題であると考えている。
- ・求める会：地域の実態や、要望等を加味していただきたい。
- ・求める会：大岡小学校保護者でとったアンケートでは 92%が存続を希望している。大岡小学校の少人数規模としてのデメリットが上がっているが、保護者はそのデメリットを容認している。統合に関しては容認できない姿勢であることを改めて申し上げたい。
- ・求める会：教育長がいう、子どもたちの教育環境を第一に考えたいという話は、学校の中だけの話、規模だけの話に聞こえる。教育環境は通学、住環境を含めたものではないか。
- ・教育長：通学に関しては確かに統合となった場合、距離が遠くなる。そこについては、スクールバスを出すことで考えていきたい。
- ・求める会：高坂小学校の校区変更の際には、スクールバス運用が何年かでなくなったので

はないか。

- ・教育長：野本小スクールバス運用に関しては、当初から3年間、つまり低学年だけで通学することになってしまうので、1年生が4年生となり、高学年を含めた班編成ができるまでの3年間、スクールバスを運用した。
- ・求める会：ということは、大岡小学校は未来永劫、スクールバスで通うということなのか。市全体がスクールバスを運用していく方針になることか。
- ・教育長：「統合」になった場合は、スクールバスを前提に考えるということです。
- ・事務局：「統合」となった場合、審議会答申の付帯事項に付されることが想定される。決定事項ではないが、「統合」となった場合、導入されるであろうということ。野本小の時には高学年を含む通学班編成ができるまでの間、スクールバスを運用した。
- ・求める会：バスを出せば良いわけではないが、マンモス校が良いといっているように聞こえる。大岡小学校は少ない人数でも1人1人に目が届く、伸び伸びと育てる方が良いのではないか。野田地域から北（大岡地区）は学校がなくなり、地域が衰退をしていく。衰退しているところから、人数が多い、他地区の学校へ出ていく子の気持ちを考えたことはあるのか。地域の要望としては、地域の活性化をする施策を考えていただきたい。教育委員会は直接手を下すことはできないが、しかし同じ行政の一員なので、市長部局と人口流入の手立てを考えることは必要であると思うがいかがか。
- ・教育長：地区の都市計画について、教育委員会では考えているところではない。教育委員会は子どもの環境を考えている。マンモス校が良いとは言っていない。大岡小は現在1クラスであるが、今後、1クラス5人ということが今後、断続的に起きる。それが6年間続くとなれば、人間関係も固定化される。そのような学習環境はこれまで大岡地区にもなかったと思う。目が行き届くというが、低学年にとってはいいが、高学年にもなると常に教員が関わりすぎるという状況は必ずしも良いと言えないだろう。
- ・求める会：必ずしも、小規模が良いとは言っていない。大岡小学校を発展させたいことは地域の想いとしてある。市として大岡地区に目を向けてほしい。東松山市を盛り上げるためにも、大岡地区も盛り上げていこうということを考えていただきたい。そのような姿勢が見られない。
- ・事務局：市の都市計画を含めた地域の活性化については、市の最上位計画である、総合計画が既に第5次として10年スパンで進められてきている。計画策定の際にも、地元とヒアリングを行い、最終的に市議会で承認いただいたものであり、この計画に基づいてまちづくりを進めていくということが市の方針である。ただ少子化の中、子どもが増えることは望ましいことであるので、市長部局とも話し合っていく。
- ・求める会：大岡小学校、松山第二小学校、市の川小学校を一つにするという統合の話がい

きなりの話である。この状況みれば、やむを得ないと思っている人がいるかもしれないが、分校等段階を踏むのではなく、いきなり統廃合ですとなっている。地域のことを考えずに、机上の理論である。もう一度、よく考えていただきたい。

- ・ 求める会：適正規模の話し合いが始まったのは、今から2、3年前からだと思う。教育委員会事務局で、その頃から関わってきた方はどのくらいいるのか。
- ・ 事務局：2名いる。それ以外は、人事異動の関係で今年、4月の人事異動で配置された。
- ・ 求める会：大きなことを話し合っていく時には、異動せず、残ってやっていただきたいと思う。異動し、後からくる人へ責任を、というのは卑怯であると個人的に思う。中村教育長の時から話し合ってきて、吉澤教育長が尻拭いしている。

桜山小は学区の人数は減っているが、特認校制度でクラスが増えてきた。また、働き方改革で都会田舎という言葉ができたように、仕事とは別に田舎に住む人が増えてきている。大岡地区は農業振興地域で何もされていない。いなほテラスはなぜ遠いのか、大岡農協はなぜ去っていったのか、大岡は見捨てられているのではないか。

農林公園、ぼたん園は利用するだけであり、COEDO ビールが来ても大岡の方は働いていないのでは。点と点が線や面になっていない。里山留学ができるのではないか、様々な形で大岡に呼び込めないか、特認校になんとかなれないのか。行政として20～30年何の働きかけもしてこなかったから今の現状がある。働きかけたうえで、現状が変わらない（子どもの人数が少なかった）のであれば理解できる。行政として大岡地区をどのようにしていきたいのか等知恵を絞っていただきたい。

- ・ 求める会：本日配付された昨年11月の報告会会議録は審議会として取り扱われているのか、地元の熱量を審議会に伝えているのか、第3回審議会会議録を見ても、その議論が一切ない。審議会では、報告会について、どのように説明したのか。
- ・ 事務局：審議会当日、説明したのは、各校区の報告会参加人数です。報告会でいただいた多数のご意見はどれも大切なものであります。会議録については、審議会開催の2週間程前に委員に送付し、熟読いただき、審議会に参加いただき、審議いただくよう事前に送付しました。
- ・ 求める会：熱量が伝わっていないのではないか。なぜ、議論していないのか。
- ・ 事務局：審議会でも審議いただくことは、教育的な視点から、学校適正規模について審議をしていただくことです。皆様からいただいたご意見、大岡小校区ですと、存続を求める声が多数あったことについては、事務局としても受け止めています。当日、限

られた時間で全てをお伝えすることは困難であったため、資料を 2 週間前に委員の皆様へ事前送付する手法をとり、皆様からのご意見をお伝えしたところです。

- ・求める会：事前送付したことは、熱量を伝えたことにならない。またアンケートについては、審議会に諮ると言っていたのに、諮られなかった。不信感がある。今後、約束したことはしっかりと対応してほしい。

- ・求める会：大岡地区の報告会で空気を読んでいただけたと思う。歴史的背景から独特の住民感情がある。大岡小が統廃合の対象となることは許せないことである。歴史的な背景から、大岡地区に大岡小は欠かせないものである。大岡小学校は唯一の文化・教育のコア的な存在である。 小学校がなくなったら限界集落が限界を越える。松二小へ統合となれば、岡地区の住民は、より近い大里吉見小学校への区域外就学を希望する家庭もいるのではないか。大岡地区は、歴史や特性や、誇りを持って暮らしている。地域の感情、意向を汲み取っていただき、丁寧に慎重に進めてほしい。

- ・求める会：統合については、反対ではあるが、一つ提案であるが、スクールバスを出すのであれば大岡小を特認校として、大岡小学校にバスで通えますというのはいかがでしょうか。検討していただけないか、柔軟な考えを持っていただきたい。
- ・事務局：特認校については審議会でも検討されている。方策の 1 つとして議論したところ、小学校第二地域には馴染まないと言論されている。また特認校については、どのような特色をもって特認校とするかを考えなければならない。小学校第二地域について、子どもたちにとってよりよい学習環境を整える方策を審議している。特認校は全く議論されていないものではない。
- ・求める会：学区撤廃も含めて考えてほしい。

- ・求める会：本日あった意見は、意見として受け止めて話を進めていただきたい。

- ・求める会：スケジュールの確認で、小学校第二地域の方策実施を先送りにするということだが、他の地域も遅らせるということか。
- ・事務局：審議会でも検討を有する地域について、検討順位を確認し、進めている。並行して同時に 2 つの地域を検討するのは難しいと考えている。
- ・求める会：推進計画は完全に白紙ということか。

- ・事務局：小学校第二地域の結論が出なければ次にいけないということではない。児童・生徒の推移を踏まえ、推進計画に沿って行いたいと考えている。
- ・事務局：小学校第二地域の方策決定が終わるのを待つとなると、他の地域の学校適正規模の検討が進まないので、全市的に検討を行う趣旨である。

要 望 書

大岡小学校の存続に関する要望

令和4年1月17日

東松山市長 森田光一 様

東松山市教育長 吉澤 勲 様

大岡小学校の存続を求める会

会長 篠原輝義

住所：東松山市大谷2823-93

TEL：080-3221-4627

大岡地区区長会

大岡地区自治会連合会

大岡小学校児童保護者

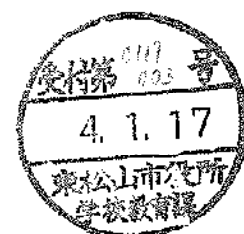
大岡地区選出市議団

大岡地区シニアクラブ連合会

交通安全母の会大岡支部

大岡地区母子愛育会

その他主旨賛同団体



件名 大岡小学校の存続に関する要望書

(要 旨)

東松山市教育委員会では「東松山市立小・中学校適正規模審議会」の答申を受け、令和3年2月に基本の方針を、同6月には推進計画を策定しました。この中で大岡小学校は、松山第二小、市ノ川小と同じ地域に分類され、令和6年4月を目途に統合・再編の対象校となっています。

本計画は、学校適正規模だけを主眼とし地域性を全く無視した計画であり、統廃合を目的とした大岡小廃校在りきの施策です。また、統廃合を回避する施策を考へることなく進められています。私たち、大岡小を愛する住民としては、この廃校ありきの計画を容認できません。

従って、市及び教育委員会は本計画を撤回の上、都市計画の見直しによる人口流入、地域環境向上のための施策を新たに立案し、大岡小学校の存続と大岡地区の活性化が図られるよう要望します。

なお、この要望に当たり、大岡地区住民の署名活動及び大岡小学校保護者によるアンケート調査を実施しましたので、その結果を添付します。

(要望の理由・経緯等)

1. 大岡小は、明治5年に開校し、令和5年には150周年を迎える。同校は、長年に渡り、地域の発展と共に、地域に愛され、育まれ、共に歩むなど、多くの文化と歴史を刻んできた。また、地域の大イベントである運動会・体育祭を合同で行うなど、コミュニティの中心的存在であり、コア的位置づけにある。

一方、大岡小の学級編成は、多くの年度において学年単学級であり、近年では平成15年度より単学級となっている。

行政は、この長年の間企業や住宅等の誘致策等、大岡の発展に繋がる対策を取っていない。それどころか、令和5年4月1日以降、都市計画法34条11号の規制を厳しくし、建築物の用途縮小を立案している。このことは、大岡地区の発展の妨げ、人口の減少、すなわち児童数の減少に拍車をかけるものである。

小規模校を理由に令和6年から統合・編成を実施するとしているが、何ら手を打たない中での実施は容認できない。

2. 本会では、大岡地区住民に対し、大岡小学校存続に関する署名活動を実施した。その結果、大岡地区全住民の約 2000 人の多くの方々から署名を頂いた。このことは、教育行政のみならずその背景にある地域行政のあり方に対しての強い関心の表れである。

一方、大岡小保護者では、大岡小統廃合問題について保護者に対してアンケート調査を実施した。この結果、大岡小の存続を希望している保護者は 92% という高率であった。

市長、教育長は、この数字の意味するところを十分に汲み取り配慮をお願いする。
3. 国の学校適正規模・法令上の規定の学校教育法施行規則第 41 条のただし書きでは「地域の実態とその他により特別の事情のある時はこの限りでない」としている。大岡小の歴史的存在及び行政区に唯一の学校であることは、但し書きに言う特別の事情に該当する。
4. 方策では小規模校のデメリットとして、競争性や切磋琢磨等の喪失を挙げている。しかし、大岡小は長年小規模校として運営されており、一人一人に目が届きやすい、丁寧な学習指導ができるなど、きめ細かい教育を行うことができる他、異学年間を超えた人間関係の構築などデメリットを超える多くのメリットがある。
5. 最近、ベルク、クリエート、ローソンなどの商業施設が開店し、生活環境は向上した。しかし、大岡小の統合・再編は、人口の減少・過疎化の進行要因となり、生活環境の衰退を誘引する。従って、教育委員会の現方策は地域発展策として受け入れ難いものである。
6. 大谷地区にあって、野田の一部やフラワー団地などは松二小へ通学している。統合・再編以前に、通学区域の変更があつてしかるべきである。
7. 方策の基本的方針中「学校規模の適正化に伴う配慮事項」で「すなわち、学校適正規模の基準を形式的に適用するのではなく、対象校の保護者や地域住民と統合・再編の必要性や実施方法等に十分話し合い相互の理解を図ることが最も重要である」と述べている。しかるに、11月20日の途中経過報告会までは、住民、児童保護者は何らの説明や報告も受けていない。即ち、これまで

「配慮事項」の主旨は一顧だにされていない。

また、12月24日に行われた審議会では、「教育委員会は、住民との意思疎通を十分に行い、相互の理解を図る努力をする」よう改めて求めている。さらには、現状のあり方では、令和6年実施は早計であるとの意見も複数あった。

8. 仮に令和6年から大岡小が松二小へ統合された場合の通学距離であるが、上岡観音の信号から松二小までは、現中学生のルートを経由すると5.1km、松二小へ比較的に近い亀の甲団地からは3kmと、それぞれ3.4倍、3.7倍となる。さらに最も危惧されるのは、健常な中学生は自転車通学(2km以上の通学距離は可)、弱者児童は北中を過ぎ、現在の数倍もかけての徒歩通学。不可思議な現象が生じる。この現象は、児童に被害者意識、妬み、ひがみ等様々な心理的影響をもたらせ、ひいては不登校の要因ともなりかねない。因みに、教育委員会が実施したアンケート調査での通学可能距離は、市民では2.5km未満、保護者は2km未満、教員は3km未満となっている。これを教育委員会は「基本的方針」の中で4km以内としている。
9. テレワークの推進により、自然環境の良好な当地域への転入希望者が増える傾向にある。若い人のより一層の誘致を図れるよう、都市計画の一部を見直した施策立案及び、その子供たちが通学できる学校の存続が必要である。
10. 生活様式の多様化により、就農希望者が増えている。大岡地区には良好な農地が管理保全という名目で放置されている。現行の法制度では新規就農希望者には厳しいものとなっていることから、積極的な新規就農者を呼び込む施策を展開してもらいたい。

上記のとおり要望いたします。

(添付書類)

- ① 大岡小学校の存続を求める署名簿 (署名者数:1995名)
- ② 大岡小学校保護者によるアンケート調査結果
- ③ 「東松山市小・中学校適正規模に係る途中経過報告会」質疑応答概要

(令和3年11月20日実施)